

デンマークの保育事情のレクチャー

お話：澤渡夏代 Brandt

子ども産みやすい環境作り

デンマークの女性は子どもを産んでバリバリ働きたいということをステイタスにしているそうです。

子どもの人口増加中の現在では、合計特殊出生率は 1.79 になり、初産平均年齢は 29 歳です。

しかし 1983 年頃は 1.37 と減少しました。このままではいけないと産休、労働時間、保育施設、エスカレータの整備をはじめ育児制度を整えて欲しいという女性のデモンストレーションなどが活発となり、これが成功し、女性が子を産みやすい環境になったことから、1983 年以降出生率は上がっていきました。

日本とは子どもをもつ環境が違う

自治体から 70%、親から 30%全保育に払われます。0 歳から 2 歳までの子どもたちには約 2 万円の援助、18 歳以下の家にいる子どもたちには児童手当もあります。また、大学生、専門学校生、訓練生には日割り手当て（約 6 万円、税金も払う）もあります。

母親だけでなく、父親に 2 週間の産休も認められていたり、母親・父親合わせて 32 週間の産休がフレックス制のニーズにより認められています。よって母親だけではなく、夫も共に子どもを育てていく環境が整っているのです。また家族の決定権も父親・母親共にというところ

が多く、男女関わる教育であることがわかります。

デンマークの子育て・保育事情

新生児は約 3 日から 4 日で家に帰ることができ、保健婦さんにより出産後 10 日以内に家庭に連絡、訪問の通知があります。1 歳まで 5 回から 7 回の家庭訪問もあり、マザースグループが結成されています。

（保育園）

総合保育園...1~6 歳まで同じ場所で生活している。

森の保育園...森の中に行き、雨でも自然にふれながらみんなで遊んでいる。



<大木の切り株で遊ぶ子どもたち>

0～2歳	56.1%	公共乳児保育及び 保育ママ
3～5歳	94.0%	公共保育
6～9歳	80.9%	学童保育
10～13歳	12.6%	青少年クラブ

0～1歳は母親が産休中で家いるので、家庭保育が成立します。

6～9歳は全ての学校に3年生まで入ることの出来る学童クラブがあり、そこには生活指導員の方もついていて必ず子どもたちの居場所があります。

4年生以上が入れる青少年クラブは18歳まで利用することができ、自分の能力を活かせる場となっています。また、独立法人、プライベートな理由（宗教など）で保育園をつくることもあるそうです。



（ロスキレ市の保育事情）

保育園	施設数	スタッフの数 (子一人に対し)
乳児保育園数	11ヶ所	0.33人
幼児保育園数	24ヶ所	0.18人
総合保育園数	25ヶ所	0.23人
保育ママ数	130人	0.36人

待機児...手当を支給するので家庭で保育をしてということ。これも対策の一つ。

保護者も労働者であり、延長保育もなし、保育者も家族があります。しかし、3時から4時頃の迎えが多いそうです。こ

れにより労働時間が短いということがわかります。

保護者の財布

(出費)

乳幼児 (0～2歳)	2725kr
幼児保育 (3～5歳)	1560kr
保育ママ (0～2歳)	2210kr

(入費)...1ヶ月

0～2歳	1123kr
3～6歳	1015kr
7～17歳	799kr

デンマークの人たちは

子どもとどのように向き合うのか？

- 一、子どもは子どもらしく
- 二、遊びを通して学ぶ
- 三、対話
- 四、動機付け、見守り（モチベーション）
- 五、決定に参加、合意

『見ます・聞きます・話します』

遊びを通して意見を言ったり、発言力が大切なのです。褒めるということも大切であり、小さい頃は言葉がわからないけれども、大人が話しかけることによりボキャブラリーが生まれてくるのです。デンマークの民主主義らしい考え方、「自己決定」を重点におき向き合っていることがわかります。小さい頃から自立を教え、物事を教えています。何歳になったから～することを覚えさせるということはないのです。日本の場合は、上のものに対して自分の意見を強く言うことが出来ません。この文化をかえなければ、日本はいつまでたってもかわらないのです。

教育は何のため？

- 一、教育は生きるため

（小学校のような小さいときから自分

のやりたいことを決めている。)

二、人として豊かに

三、学ぶことを学ぶ

(テーマが環境であるとしたらレポートを書く。教える側はどのようにしてレポートを書くのかを伝える。)

四、みんな違ってみんないい

(お互いを尊敬する)

五、管理と競争で得るものはない

(自分との競争、ランク付けは好まない。他人との競争などない。)

デンマークの学校教育

(1)子どもにとって優しい制度

義務教育は9年生で卒業です。しかし小学1年生に入る前に幼児クラスというものがあります。これは任意教育であり入るか入らないかはそれぞれの自由となっています。今まで保育園という自由な環境で遊んでいたため、直ぐに椅子に座り話を聞く、授業をするというようなことが難しいのです。よって、小学校といった新しい環境に慣れるということを目指して幼児クラスがあるそうです。ここからも、子どもにとって優しいということが伝わってきます。

(2)クラスについて

1クラス20~23人くらいで基本的に9年間は、同じ仲間、同じ担任です。

もしもそのクラスがなじまなかったりしたならば、私立の学校、地域の学校に移動したり、クラスをかえたりすることも可能です(先生も含めて)

また先生は37時間労働で親の会(PTA)などはすべて夜に行われます。

教科書はなく、先生それぞれのアイデアにより授業は進められます。

何年生までにこのくらいまで教えると基準があります。担任はそれに合わせて

資料を作り、子どもたちに教えています。もし「 $1+1=3$ 」というこどもがいたら何らかの理由があると考えます。

理由があるのなら「 $1+1=2$ 」でなくても良いのです。

ここから子どもたちは子どもらしくといった考え方が伝わり、子どもたちが非常に大切にされていることが伝わってきます。

また、先生たちの机はなく、6年生ではスクールアドバイザーがいて、進路のことを決めていくために対面で一つのレポートをつくるなど相談できるネットワークもあるのです。

デンマークでは人間同士の信頼関係があるのです。

(3)10年生も可能

中学校卒業後10年生という任意教育を受けることが設けられています。

一般高等教育	アンダーライン以上の人は大学に進むことができる。
高等職業訓練コース	中期高等教育(看護師・保育士など)
基礎職業訓練	専門の先生につく。担任が1クラスに2人。

この10年生でゆっくり自分の成長を遂げ、自立へ向かっているのです。

これも自分自身の希望が誰よりも優先されます。デンマークの自己決定はここでも伝わってきます。

(文責: 糸山奈々)